

2023 年度 がん診療連携拠点病院等における外来がん治療部門の薬剤師業務と地域連携に関する実態調査 集計結果

【対象・方法】

2023 年 7 月 1 日の時点で拠点病院に指定されている 456 施設に対し、Google forms を用いた調査を実施した。
詳細を以下に示す。

調査方法：Google forms を利用したアンケート調査

対象施設：2023 年 7 月 1 日の時点で拠点病院に指定されている 456 施設

実施期間：2023 年 8 月 28 日～9 月 22 日

項目：1. 施設状況、2. 外来化学療法に関する業務、3. 連携充実加算の算定、4. 保険薬局との薬薬連携、5. がんゲノム医療、6. バイオ後続品導入初期加算

【具体的な設問項目と集計結果】

アンケートの回答率は、67.5% (308/456 施設) であった。 参考データ：2022 年度回答率 73.3% (332/453 施設)

1. 施設状況

許可病床数 (n=308)

	2023 年度	%
500 床以上	186	60.4
400～499 床	66	21.4
300～399 床	34	11.0
200～299 床	17	5.5
100～199 床	4	1.3
100 床未満	1	0.3

がん領域における各認定取得者の在籍状況

設問 1-1 日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師

	2023 年度	%	～99 床	100～199 床	200～299 床	300～399 床	400～499 床	500 床以上
在籍している	151	49.0	1	1	3	15	27	104
在籍していない	157	51.0	0	3	14	19	39	82

設問 1-2 日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療専門薬剤師

	2023 年度	%	～99 床	100～199 床	200～299 床	300～399 床	400～499 床	500 床以上
在籍している	99	32.1	0	1	3	10	21	64
在籍していない	209	70.2	1	3	14	24	45	122

設問 1-3 日本医療薬学会 がん指導薬剤師

	2023 年度	%	～99 床	100～199 床	200～299 床	300～399 床	400～499 床	500 床以上
在籍している	106	34.4	0	0	1	2	17	86
在籍していない	202	65.6	1	4	16	32	49	100

設問 1-4 日本医療薬学会 がん専門薬剤師

	2023 年度	%	～99 床	100～199 床	200～299 床	300～399 床	400～499 床	500 床以上
在籍している	159	51.6	0	0	2	7	28	122
在籍していない	149	48.4	1	4	15	27	38	64

設問 1-5 日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師

	2023 年度	%	～99 床	100～199 床	200～299 床	300～399 床	400～499 床	500 床以上
在籍している	213	69.2	1	3	5	29	46	129
在籍していない	95	30.8	0	1	12	5	20	57

設問 1-6 日本病院薬剤師会 がん薬物療法専門薬剤師

	2023 年度	%	～99 床	100～199 床	200～299 床	300～399 床	400～499 床	500 床以上
在籍している	24	7.8	0	0	1	1	5	17
在籍していない	284	92.2	1	4	16	33	61	169

がん領域における診療報酬算定状況

設問 1-7 外来腫瘍化学療法診療料算定状況

	2023 年度	%
外来腫瘍化学療法診療料 1 を算定している	304	98.7
外来腫瘍化学療法診療料 2 を算定している	2	0.6
算定なし	2	0.6

設問 1-8 がん患者指導管理料ハ算定状況

	2023 年度	%
算定あり	245	79.5
算定なし	63	20.5

2023 年度 研修生の受け入れについて

設問 1-9 日本臨床腫瘍薬学会 がん診療病院連携研修制度

	2023 年度	%	～99 床	100～199 床	200～299 床	300～399 床	400～499 床	500 床以上
受け入れている (今年度受け入れ開始も含む)	98	31.8	0	0	4	9	23	62
受け入っていない	210	68.2	1	4	13	25	43	124

設問 1-10 日本医療薬学会 地域薬学ケア専門薬剤師制度

	2023 年度	%	～99 床	100～199 床	200～299 床	300～399 床	400～499 床	500 床以上
受け入れている (今年度受け入れ開始も含む)	88	28.6	0	0	2	1	10	75
受け入っていない	220	71.4	1	4	15	33	56	111

2.外来化学療法に関する業務状況

設問 2-1 がん治療に関わる薬剤師の実施している業務内容をご回答ください。

	2023 年度	%
抗がん薬の治療スケジュール説明	290	94.2
インフォームドコンセント（医師と協働）	55	17.9
副作用モニタリング	289	93.8
支持療法の処方提案	287	93.2
有効性・副作用、対処方法の説明	288	93.5
副作用などの電話相談	115	37.3
薬剤師外来の服薬指導や薬学的管理	155	50.3
保険薬局への情報提供や情報共有	255	82.8
服薬アドヒアランス確認（残薬確認）	190	61.7
他院・他科の処方内容確認	221	71.8
PBPM に基づいた処方及び検査オーダー	108	35.1
上記以外	17	5.5

設問 2-1 で選択したがん治療に関わる薬剤師の実施している業務内容の中で実施頻度の高い内容を2項目までご回答ください。（複数選択可）

	2023 年度	%
抗がん薬の治療スケジュール説明	160	51.9
インフォームドコンセント（医師と協働）	2	0.6
副作用モニタリング	178	57.8
支持療法の処方提案	75	24.4
有効性・副作用、対処方法の説明	94	30.5
副作用などの電話相談	0	0.0
薬剤師外来の服薬指導や薬学的管理	32	10.4
保険薬局への情報提供や情報共有	27	8.8
服薬アドヒアランス確認（残薬確認）	0	0.0
他院・他科の処方内容確認	3	1.0
PBPM に基づいた処方及び検査オーダー	14	4.5
上記以外	4	1.3

設問 2-2 自施設の特徴であるとする取り組みや活動について、何かありましたらご回答ください。（一部抜粋）

- ・ ICI 使用中の患者に対して、アプリを用いたモニタリング
- ・ PBPM を活用した代行オーダー依頼（B 型肝炎スクリーニング・尿蛋白検査など）やオーダー修正（トラスツズマブ 2 回目以降の投与量修正など）
- ・ ZOOM 等を利用した近隣薬局との WEB カンファレンス
- ・ ePRO を用いた副作用モニタリング
- ・ がんゲノム検査に基づく適応外使用の抗がん薬のマネジメント
- ・ 薬剤師外来を開設（内服抗がん剤の服薬指導や副作用確認、処方提案、保険薬局との情報共有）
- ・ 電話サポート
- ・ オンライン申請によるトレーシングレポート受領

設問 2-3 注射抗がん薬（経口抗がん薬の併用を含む）治療患者において、薬剤師が対応する患者について最も該当するものを一つご回答ください。

	薬剤師が対応する患者	%
全患者	161	52.3
特定の診療科	20	6.5
特定のレジメン	10	3.2
薬剤師の判断	61	19.8
医師の依頼した患者	29	9.4
患者対応はしていない	5	1.6
上記以外	22	7.1

設問 2-4 注射抗がん薬（経口抗がん薬の併用を含む）治療患者において、対象患者へ対応する頻度についてご回答ください。

	対象患者へ対応する頻度	%
原則毎回（9割以上）	91	30.0
依頼時・必要時（約5割以上）	62	20.5
依頼時・必要時（約5割未満）	150	49.5

設問 2-5 注射抗がん薬（経口抗がん薬の併用を含む）治療患者において、薬剤師が対応するタイミング（診察前と診察後の比較）についてご回答ください。

	薬剤師が対応するタイミング	%
基本的に診察前に対応	18	5.9
どちらかというと診察前が多い	12	4.0
どちらかというと診察後が多い	77	25.4
基本的に診察後に対応	196	64.7

設問 2-6 経口抗がん薬（単独）治療患者において、薬剤師が対応する患者について最も該当するものを一つご回答ください。

	薬剤師が対応する患者	%
全患者	28	9.1
特定の診療科	43	14.0
特定の薬剤	24	7.8
薬剤師の判断	12	3.9
医師の依頼した患者	158	51.3
患者対応はしていない	34	11.0
上記以外	9	2.9

設問 2-7 経口抗がん薬（単独）治療患者において、対象患者へ対応する頻度についてご回答ください。

	対象患者へ対応する頻度	%
原則毎回（9割以上）	37	13.5
依頼時・必要時（約5割以上）	29	10.6
依頼時・必要時（約5割未満）	208	75.9

設問 2-8 経口抗がん薬（単独）治療患者において、薬剤師が対応するタイミング（診察前と診察後の比較）についてご回答ください。

	薬剤師が対応するタイミング	%
基本的に診察前に対応	52	19.0
どちらかというと診察前が多い	23	8.4
どちらかというと診察後が多い	60	21.9
基本的に診察後に対応	139	50.7

設問 2-9 外来化学療法を対象とした薬剤師による面談を行う際、専用の場所（ブース）が確保されているかご回答ください。

	専用の場所（ブース）	%
ある	197	64
ない	111	36

3.連携充実加算の算定について

設問 3-1 連携充実加算の算定状況についてご回答ください。

	2023 年度	%
算定をしている（今年度算定開始含む）	261	84.7
算定をしていない	47	15.3

設問 3-2 設問 3-1 で「算定をしていない」を選択したご施設に伺います。理由をご回答ください。

	2023 年度	%
レジメン公開が間に合っていない	16	34.0
他医療機関や薬局からの相談窓口の設置ができていない	14	29.8
算定要件である研修会の開催ができていない	15	31.9
薬剤部門・薬剤師のマンパワー不足	35	74.5
薬局との連携体制が整っていない	19	40.4
患者への情報提供ツールが整備できていない	17	36.2
院内の他職種の理解が得られていない	5	10.6
院内の栄養士の整備が整っていない	7	14.9
外来腫瘍化学療法診療料の算定がない	1	2.1
上記以外	6	12.8

設問 3-3 連携充実加算の算定に最も携わっている薬剤師の勤務体制をご回答ください。

	2023 年度	%	2022 年度	%
外来化学療法室を担当する専従の薬剤師	79	30.3	69	24.9
外来化学療法室を主に担当する専任の薬剤師	112	42.9	134	48.4
他の薬剤部業務と兼任する薬剤師	70	26.8	74	26.7

設問 3-4 どのような患者で算定しているかご回答ください。

	2023 年度	%	2022 年度	%
外来腫瘍化学療法診療料 1 算定患者全て （全診療科）で算定している	117	44.8	121	43.4
対象を決めて算定している	144	55.2	158	56.6

設問 3-4-1 設問 3-4 で「対象を決めて算定している」と選択されたご施設へ伺います。算定している患者についてご回答ください。(複数選択可)

	2023 年度	%	2022 年度	%
初回治療患者	86	59.7	98	62.0
治療レジメン変更時	89	61.8	98	62.0
投与量(減量)やスケジュールが変更になる時	42	29.2	49	31.0
副作用情報を提供する時	56	38.9	63	39.9
上記以外	60	41.7	65	41.1

設問 3-5 連携充実加算の対象患者において、治療継続中に介入を終了することがあるかご回答ください。

	2023 年度	%
ある	119	45.6
ない	142	54.4

設問 3-6 連携充実加算は月 1 回しか算定できませんが、患者指導の全件数(コストフリーを含む)に対する算定の割合をご回答ください。(2023 年 6 月実績)

	2023 年度	%
0-10%未満	30	11.5
10%以上-20%未満	27	10.3
20%以上-30%未満	21	8.0
30%以上-40%未満	26	10.0
40%以上-50%未満	16	6.1
50%以上-60%未満	31	11.9
60%以上-70%未満	26	10.0
70%以上-80%未満	26	10.0
80%以上-90%未満	21	8.0
90%以上	37	14.2

設問 3-7 連携充実加算算定を目的として、自施設が主催(共催を除く)した研修会の昨年度(2022 年度)の開催回数についてご回答ください。

開催回数	2022 年度	%
0	13	5.0
1	172	65.9
2	45	17.2
3	7	2.7
4	10	3.8
5	5	1.9
6	2	0.8
7	0	0.0
8	1	0.4
9	0	0.0
10	1	0.4
11	1	0.4
12	4	1.5

設問 3-8 他の医療機関や保険薬局への情報提供はどのように行っているかご回答ください。(複数選択可)

	2023 年度	%	2022 年度	%
お薬手帳用のレジメンシールを作成している	176	67.4	162	58.1
お薬手帳用の副作用情報シールを作成している	78	29.9	76	27.2
紙面での抗がん薬情報提供用紙を作成している	161	61.7	189	67.7
患者情報日誌(連絡帳)を使用している	26	10.0	22	7.9
独自の ICT ツールを併用している	5	1.9	8	2.9
上記以外	12	4.6	10	3.6

設問 3-9 保険薬局からの服薬情報提供書の受け取り方法についてあてはまる項目をご回答ください。(複数選択可)

	2023 年度	%	2022 年度	%
郵送	9	3.4	17	6.1
FAX	254	97.3	266	95.3
メール	16	6.1	19	6.8
独自の ICT ツール	10	3.8	10	3.6
上記以外	13	5.0	21	7.5

設問 3-10 保険薬局からの情報提供頻度について伺います。服薬情報提供(書)の1月あたりの回数(枚数)をご回答ください。(2023年6月実績)

1月あたりの回数(枚数)	2023 年度	%
0	19	7.3
1~10	87	33.3
11~20	36	13.8
21~30	22	8.4
31~40	12	4.6
41~50	7	2.7
51~60	8	3.1
61~70	3	1.1
71~80	4	1.5
81~90	0	0.0
91~100	4	1.5
101以上	11	4
未集計	48	18.4

設問 3-11 連携充実加算算定後、地域での情報提供ツールの運用が固定されたかご回答ください。

	2023 年度	%
はい	139	53.3
いいえ	122	46.7

設問 3-12 連携充実加算算定後、保険薬局からの情報提供が適正使用に繋がるケースがあったかご回答ください。

	2023 年度	%	2022 年度	%
あった	190	72.8	168	60.2
なかった	71	27.2	111	39.8

4.保険薬局との薬業連携の状況

設問 4-1 地域連携の促進のため、がん領域に関する研修会の昨年度（2022 年度）の開催回数（設問 3-7 連携充実加算を目的とした研修会を含む）についてご回答ください。

開催回数	2022 年度	%
0	30	9.7
1	147	47.7
2	66	21.4
3	22	7.1
4	17	5.5
5	9	2.9
6	5	1.6
7	2	0.6
8	2	0.6
9	0	0.0
10	1	0.3
11	1	0.3
12	2	0.6
13	2	0.6
14	1	0.3
15	0	0.0
16	1	0.3

設問 4-2 外来処方箋を院外に発行する際の処方箋監査の実施状況についてご回答ください。

	2023 年度	%	2022 年度	%
全ての処方箋を監査している	13	4.2	16	4.8
していない	196	63.6	192	57.8
一部の処方箋を監査している	99	32.1	124	37.3

設問 4-2-1 設問 4-2 で「一部の処方箋を監査している」を選択されたご施設へ伺います。どのような場合に監査を行っているかご回答ください。（複数選択可）

	2023 年度	%	2022 年度	%
経口抗がん薬を含む場合は監査している.	24	24.2	20	16.1
点滴抗がん薬治療中の患者は監査している	66	66.7	76	61.3
薬剤師外来で介入している患者は監査している	43	43.4	53	42.7
上記以外	10	10.1	15	12.1

設問 4-2-2 設問 4-2-1 で「経口抗がん薬を含む場合は監査している」と選択されたご施設へ伺います。処方監査を行っている対象にあてはまるものをご回答ください。（複数選択可）

	2023 年度	%
殺細胞性の抗がん薬を含む場合	24	100.0
分子標的薬を含む場合	19	79.2
抗ホルモン薬を含む場合	3	12.5

設問 4-3 保険薬局からの疑義照会に誰が対応しているかご回答ください。

	2023 年度	%	2022 年度	%
抗がん薬を含むか否かに関わらず、原則、医師が直接対応している	169	54.9	190	57.2
抗がん薬を含むか否かに関わらず、原則、薬剤師が初期対応をしている	116	37.7	124	37.3
抗がん薬を含む場合のみ医師が直接対応している	0	0.0	2	0.6
抗がん薬を含む場合のみ薬剤師が対応している	1	0.3	2	0.6
抗がん薬を含む場合のみ特定部門が対応している	5	1.6	3	0.9
上記以外	17	5.5	11	3.3

設問 4-4 外来患者の処方箋への臨床検査値の印字状況をご回答ください。

	院内処方箋	%	院外処方箋	%
印字している	186	60.4	165	53.6
印字していない	122	39.6	143	46.4

5.がんゲノム医療について

設問 5-1 がんゲノム医療に対するご施設の位置づけをご回答ください。

	2023 年度	%	2022 年度	%
がんゲノム医療中核拠点病院	13	4.2	10	3.0
がんゲノム医療拠点病院	23	7.5	30	9.0
がんゲノム医療連携病院	151	49.0	145	43.7
上記以外	121	39.3	147	44.3

設問 5-2 がんゲノム医療に薬剤師が関与しているかご回答ください。

	2023 年度	%	2022 年度	%
関与している	115	37.3	129	38.9
関与していない	193	62.7	203	61.1

設問 5-3 設問 5-2 で「関与している」を選択したご施設に伺います。どのように関与しているかご回答ください。

(複数選択可)

	2023 年度	%	2022 年度	%
遺伝子パネルの結果による薬学的視点から薬剤選択	23	20.0	25	19.4
遺伝子パネルの結果により選択された薬剤の説明	31	27.0	35	27.1
エキスパートパネルへの参加	89	77.4	99	76.7
治験情報の収集	38	33.0	38	29.5
薬剤師による用法用量の個別化の支援	20	17.4	16	12.4
パネル検査に対する患者への補助説明	16	13.9	23	17.8
エキスパートパネルでの事務局業務（議事録作成等）	5	4.3	11	8.5
連携施設とのセミナー開催の支援	5	4.3	11	8.5
上記以外	16	13.9	11	8.5

6. バイオ後続品導入初期加算について

設問 6-1, -2, -3 バイオ後続品の採用状況をご回答ください。

	リツキシマブ				トラスツズマブ				ベバシズマブ			
	2023 年度		2022 年度		2023 年度		2022 年度		2023 年度		2022 年度	
	施設数	%	施設数	%	施設数	%	施設数	%	施設数	%	施設数	%
採用している	265	86.0	267	80.4	265	86.0	256	77.1	243	78.9	199	59.9
採用していない	43	14.0	65	19.6	43	14.0	76	22.9	65	21.1	133	40.1

設問 6-4 リツキシマブ製剤、トラスツズマブ製剤、ベバシズマブ製剤について、バイオ後続品導入初期加算の算定状況をご回答ください。

	2023 年度	%	2022 年度	%
算定をしている（今年度算定開始を含む）	212	68.8	231	69.6
算定をしていない	96	31.2	101	30.4

設問 6-5 設問 6-4 で「算定をしていない」を選択したご施設に伺います。現時点で算定をしていない理由をご回答ください。（複数選択可）

	2023 年度	%	2022 年度	%
バイオ後続品を採用していない	9	9.4	17	16.8
薬剤部門・薬剤師のマンパワー不足	46	47.9	42	41.6
患者への情報提供ツールが整備できていない	38	39.6	40	39.6
院内の他職種の理解が得られていない	16	16.7	19	18.8
薬剤部の業務負担	26	27.1	25	24.8
経営的なメリット	11	11.5	14	13.9
上記以外	18	18.8	14	13.9

設問 6-6 算定を行っているご施設に伺います。バイオ後続品導入初期加算の説明はどの職種が行っているかご回答ください。（複数選択可）

	2023 年度	%	2022 年度	%
薬剤師	115	54.2	147	63.4
医師	128	60.4	144	62.1
看護師	15	7.1	16	6.9

設問 6-7 患者へ説明する際の説明文書は何を使用しているかご回答ください。

	2023 年度	%	2022 年度	%
病院（薬剤部を含む）で作成した文書	99	46.7	135	58.2
製薬企業が作成した冊子	134	63.2	155	66.8
学会・協議会等の作成した冊子	12	5.7	15	6.5
上記以外	10	4.7	9	3.9